

# ～お館様によるおねだりのおねだり～前編

あややや

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

スーパー都合のいい設定です。

～お館様のおねだりのおねだり～前編

目次

1

～お館様のおねだりのおねだり～前編

輝哉「うん。最近は鬼の被害もだいぶ少なくなつてゐみたいだね。町の人々のお礼の声も聞こえてくるし皆の活躍を誇らしくおもうよ。さすがわたしの子供たちだ。また次の柱合会議も誰一人欠けることなく声を聴かせておくれ」ニコ

蜜璃（や、やつと終わつたわ……）

蜜璃（お館様にお会いできるのはとても嬉しいのだけれど最近食べ過ぎでお給料金が底をつきかけてて、今日は朝からご飯を8回しかお代わり出来なかつたからもうちよつと長引いてたら空腹でお腹が鳴つちやいそうちつたわ）

蜜璃（何とか我慢できてよかつたあ…。そんなことになつてたら恥ずかしくてもうお嫁に行けなくなつてしまふもの）

あまね「それでは、これにて今回の柱合会議を締めさせていただきます。皆様のご活躍とご無事を切にお祈り申し上げます」

柱，S「はっ！」

輝哉「……」

柱，S「……？」

あまね「輝哉さま？」

輝哉「…皆に訊ねたいのだけど」

実弥「如何されましたかお館様」

輝哉「うん、その…皆、給金は足りてているのかい？」

一同「……？」

蜜璃（……あら？まだ続くのかしら）

輝哉「その、皆からそういう要望があまりにも上がらないから気になつてたんだ。柱の手当は、当人の言つた分だけあげるつて約束してあるだろう？もし遠慮しているなら心配はいらないから言つてごらん」

一同「……??」

輝哉「…あれ？」

あまね「…あの、輝哉さま」

輝哉「なんだい？あまね」

あまね「失礼ながら申し上げます」

輝哉「うん」

あまね「柱の皆様は特にそういう要望がありませんでしたので最低限のお給金はこちらで勝手に付けさせていただいていますが、その額は世間的には三月分程で町人が一生遊んで暮らせる程だと思われます」

輝哉「……ええ？」

悲鳴嶼（嗚呼……お館様は、失礼ながらあまり世間を知らずに育つてきたのだろう）ナムナム  
しのぶ（わたしも裕福な家に生まれましたが柱になつてからのあの額は正直引きましたねえ…。姉さんは何も考えずにわたしとカナヲに使つてくれてましたけど）

実弥（本当なら俺みたいな庶民には手の届かない富だよなア。……いつか全てが終わつたら、あいつのためにと思っていたのによオ：馬鹿が鬼殺隊なんか入りやがつて）

煉獄（うむ！父上の稼ぎは母上がしつかりと管理してくださついたようだつたな！俺も見習つていく所存だが千寿郎が優秀なおかげで今のところなにもしていない！）

小芭内（貰いすぎだと考えないではなかつたが…。鎧丸が一万匹いても暮らせるだろうな。甘露寺と食事する時に支払える能力が有るのは有り難いことだといつも感じ入る）

義勇（……薦子姉さんが生きていたら、今の俺なら立派な祝言を挙げさせてあげられたのだろうか）

宇髓（確かにド派手な給金だが三人の嫁をド派手に養うとなると足りり足り過ぎてるな？。と言うかあいつらもあいつらで並みの隊士以上にいたいでてるしな）

無一郎（あれ、そういうえば僕お金もらつたことないかも…。隠の人が必要な物は届けてくれるから考えたこともなかつたなあ）

蜜璃（お腹が空きすぎて、お館様のお話が入つてこないわ…）

輝哉「そ、そうなのかい？皆…」

実弥「…お館様のお心遣い誠に痛み入ります。しかし我々は既に身に余るほどのご厚遇を賜っています」

煉獄「死不川の言う通りです！お館様には本当によくしていただいている！」

しのぶ「それでも、と仰られるのなら隠の方たちに臨時支給されとはいががでしよう。鬼の被害が少なくなつたとは言え、それでも忙しくされているようです」

蜜璃（うう、もうお腹鳴っちゃう……！）

輝哉「うん…隠の子たちには既に受け取つてもらつているんだ」  
あまね「実はそれについても、額が大き過ぎて腰が引ける、という声があがっています」

輝哉「え……そなのかい？」ドヨーン

輝哉「…うん、でもそなか、足りているのならいいんだ」

輝哉「わたしが、勝手に心配してただけのようだつたね…」

悲鳴嶼（…もしや、お館様は我々に甘えてほしいのだろうか？）  
しのぶ（そうだとさすがに下を預かる立場がありますからねえ。実際あの子たちを養つて余りあるわけですし）

小芭内（甘露寺の前で情けない姿は見せられないからな）  
実弥（だがまあ、せつかくのお館様のご意向だ。何かきつかけか理由があれば…つてところだなア）

あまね「それではあらためまして、今回の柱合会議はこれにて

蜜璃「…………あつ」キュウウウウウウウウウーン

一同「えつ」

蜜璃「…………申し訳ありません、お館様。お腹が空いてしまつてて」グスン

輝哉「蜜璃」

蜜璃「はい……」

輝哉「どうして蜜璃は空腹なんだい？」

蜜璃「それは、そのう、わたしがご飯を食べ過ぎたせいでお金が……」

輝哉「足りなくなつたんだね！そうか気づいてやれなくてすまな

かつたね蜜璃！至急家に追加手当を届けさせるからね！」

蜜璃「えつ！でもそんなのいけませんお館様！今だつてあんなにたくさんいただいているのに、更にいただくだなんて…」

輝哉「いいかい？蜜璃はその体で多くの人の命を救つてきたんだ。もちろんわたしも感謝しているよ！そんな蜜璃が困つていて、助けてあげたいとおもうのは鬼殺隊の長として当然じやないか！なにせ、日輪刀を握れないわたしがしてあげられることはこのくらいなのだからね」ニコニコニコニコ

蜜璃「あ、ありがとうございます！」グスグス

輝哉「それでどれくらいあれば足りるのかな？」

蜜「は、はい。では、このくらい、お願ひしますっ」

輝哉「うんうん、わかった。あまね」

あまね「はい。至急甘露寺様の邸宅に届けていただくよう手配いたします」

あまね「今はとりあえずこちらをお持ちください」ペラッ

蜜璃「わつ、こんなに…ありがとうございます！」ペコ

輝哉「来月からは手当も上乗せするからね。さ、会議事態はもう終わっているから好きなものを食べておいで」ニコニコ

蜜璃「はい！行ってきます！」ダダダ

小芭内（甘露寺、そんなに空腹だつたのか。言つてくれれば何でも好きなものを食べに連れていつたのに……。いや、女子の口からそんなことを言わせる訳には行かないだろう！これは甘露寺の変化に気がつけなかつた俺の落ち度だ！ああ、許してくれ甘露寺いい……）へニヨヘニヨ

柱，s（……）ジー

宇髓（なんか伊黒が隣でナメクジみたいになつてやがるが今の甘露寺とお館様との一幕、お館様の反応。これは…）

悲鳴嶼（嗚呼…）

しのぶ（ええ）

実弥（あア）

煉獄（うむ！）

義勇（む）

無一郎（うん）

柱，s（是非とも喜んでいただいてニコニコさせてみたい！）

輝哉「さて」

輝哉「他の皆は本当に大丈夫なのかな？わたしが力になれることがあればなんでも言つてほしいつ」ニコ

宇髓「はいはいはーい！お館様！」

輝哉「天元！なんでも言つてみるといい」

宇髓「実は嫁たちにド派手な髪飾りを送りたいのです！」

輝哉「それはいいことだね！彼女たちはきっと喜んでくれるよ！」

ニコニコ

宇髓「それで、俺は細工は自分で施せるのですがそこにド派手な宝石を組み込みたいのです！」

輝哉「天元はとても器用で妻たちをおもいやる優しい子だ！あまね！」

あまね「宇髓様、隠の方が間もなく裏手の方に産屋敷家所有の鉱脈から採掘された数十種類の輝石の原石を用意してくださいます。その他にも外国から取り寄せた珍しい品もござります。それでもお持ちください」

宇髓「ハハアっ！嫁たちも喜びます！ありがとうございます！」

輝哉「うん！裏手に行つておいで」

宇髓「行つてまいります！」ヒュン

輝哉「ふう」ツヤツヤ

輝哉「皆も天元みたいに何かほしいモノや、してほしいことがあれば言つてほしいなつ」ツヤツヤ

あまね「……」

後編へ